

(令和5年度)

## 神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	対象学年	全学年
講義日	令和5年9月4日(月)・9月7日(木)		
テーマ	合唱の楽しさを味わおう		
講師	関西国際大学非常勤講師 兵庫県合唱連盟副理事長 矢田 正一		
講義内容			
<p>合唱の楽しみ方は2人から大人数までいろいろな形態がありますが、全学年の大人数学生による合唱の楽しさを体験していただきます。多くの人の声を重ねて表現する合唱が、生きる力につながるようにと期待しています。</p>			
基礎理論の理解			
発声の基礎			
発声練習			
ハーモニーの理解			
日本における合唱の黎明期			
混声合唱曲①			
混声合唱曲②			
混声合唱曲③			
混声合唱曲④			
講師からのメッセージ			
<p>大きな声で歌えば健康に良いことがよく知られています。同時に腹筋を鍛えて寿命が延びることも実感しましょう。さらに表情豊かに歌う喜びを体験するとともに、声を重ねて合唱する楽しさを存分に味わいましょう。</p>			

(令和5年度)

## 神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	対象学年	2年
講義日	令和5年9月14日(木)		
テーマ	20世紀の音楽 I		
講師	神戸学院大学人文学部教授 宇野文夫		
講義内容	<p>クラシック音楽をルーツとする西洋の芸術音楽は、20世紀以降その様相を大きく変化させていきました。それは、芸術家を取り巻く世界の大きな変化が、芸術の表現にも大きな影響を与えたためと言えるでしょう。音楽ではクラシックを支えていた理念(ものの感じ方、考え方)が、時代や社会の変化により新しい時代の創作を支えるものではなくなっていきました。そして作曲家達は新たに、時代に相応しい表現を模索していきます。この「20世紀の音楽 I」では、19世紀から20世紀にかけて活躍した作曲家達を取り上げ、クラシックとは異なる新しい創作表現の軌跡を辿ります。交響曲と歌曲のグスタフ・マーラー、印象主義のクロード・ドビュッシー、無調から12音技法に進んだアルノルト・シェーンベルクとその弟子であるアルバン・ベルクとアントン・フォン・ウェーベルン、アメリカの実験音楽の祖チャールズ・アイヴズ、原始的な舞踊音楽で知られるイゴール・ストラヴィンスキーといった作曲家達を中心に、紹介し解説していきます。</p>		
講師からのメッセージ	<p>クラシックのような音楽が20世紀に入ってから作られず、なぜ作曲家達は新しい表現を志向してきたのか、一緒に考えてみたいと思います。</p>		

## 神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	学年	2年
講義日	令和5年 11月 21日		
テーマ	合唱実技(7)(8)		
講師	神戸大学名誉教授 斉田 好男		
講義内容	<p>前期までの「合唱実技」の内容を踏まえて、多様なジャンルの中から曲を選択し合唱を行う。 3年時の発表を念頭に置きながら、その導入ともなるべき曲を使用し演習を行う。</p>		
講師からのメッセージ	<p>当該学年の皆さんの特徴を生かした曲を可能な範囲で選び、3年時の「合唱演習」に結び付けていこうと考えています。広い部屋を使用など、コロナ対応にも十分気を付けながら行います。</p>		

## 神戸市シルバーカレッジ シラバス

項目	音楽文化専攻	対象学年	2年	日程	令和5年11月22日
テーマ	音・ひと・くらしー身近な音響学Ⅱー				
講師	阪上公博(神戸大学大学院教授)				
講義内容					
<p>1. ねらい</p> <p>みなさんは主として音楽文化の理解を深めるために、音楽に関連する諸学を学ばれるわけですが、音楽のもととなる「音」そのものについて、理解を深めることで、人間と音との関わり、ひいては音楽との関わりへと、さらに幅広い知見を身につけていただくのが狙いです。</p> <p>2. 主な内容</p> <p>本講義では、テーマを「音・ひと・くらし」と題して、さまざまな場面での音と人間の関わりを考えてみたいと思います。「音」は物理現象であると同時に、耳で感じる聴覚事象でもあります。本講義では身近な音の話題を取り上げます。</p> <p>(1) 街の音環境</p> <p>音が人間のくらし、そして街、ひいては社会にどのようにかかわっているか、音環境学、都市音響学と呼ばれる分野の立場から、ご一緒に考えてみたいと思います。</p> <p>(2) 「音のデザイン」をデザインする</p> <p>音環境を設計する「音のデザイン」は、人の暮らしにかかわるもので、音響学の中でも重要な分野です。その「音のデザイン」を、さらにデザインの優れたものにしていくことが、昨今のトレンドになりつつあります。その取り組みをいくつかご紹介します。</p>					
講師からのメッセージ					
音響学にはさまざまな分野があり、広範な広がりがありますが、当科目では人の暮らしとの関わりのあるトピックを取り上げて紹介する予定です。					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（総合芸術コース音楽文化専攻 ）

項 目	映画音楽史・ミュージカル映画	対象学年	2年	場所	音楽室
テーマ	映画における音楽の歴史・機能・伝統的なスタイルについて				
講 師	神戸大学大学院 博士後期課程 肥山紗智子				
<p>講義内容</p> <p>キーワード：</p> <p>映画音楽の歴史・機能・分類、ミュージカル映画の歴史・スタイルの継承と変遷、</p> <p>第1回 映画音楽史 令和5年11月29日</p> <p>① サイレント映画時代の音楽 ー音楽の必要性</p> <p>② トーキー黎明期の音楽</p> <p>③ シンフォニック・スコア時代の産物</p> <p>④ 映画の音／音楽の分類 ー映画の音／音楽による多様な表現</p> <p>第2回 ミュージカル映画 令和5年12月20日</p> <p>① サイレント映画時代の音楽映画</p> <p>② 歌うことの不自然さからの解放</p> <p>③ ミュージカルの「映画」化を追求した人々</p> <p>④ スタイルの継承と変化</p> <p>この講義では、基本的に音楽を映像から切り離さず、映像との関係性について解説する</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>本講義では、1920～50年代の映画、特にアメリカ映画を中心に扱いますが、そのような古典的な音楽（音響）演出の技法が、それ以後の作品でどのように継承されているのかについても触れたいと思います。皆様が現在の映画とその音楽も、より面白く鑑賞できるような内容になるよう努めます。</p>					